

F-6 現代社会における実践家政学の役割

県立新潟女短大 柳原文一

目的 実践家政学はいろいろな分野において社会に貢献すべきことを考究した。

方法 思弁的方法による。

結果 わが国はGNP自由世界第2位になり、経済的繁栄をよめたが、反面物価高、種々の公害、過密過疎等の病的現象をも呈している。この原因は生産第一主義にあり、(消費)生活を軽視した政策を押し進めて来たことによるものと思われる。研究、教育において、生産に奉仕する、職業につくべきものばかり偏した応酬といえよう。このひずみを是正し真に豊かき社会を築くためには、“生活”の研究、教育および政策に重心を置くべきである。家政学は生活ことば家庭生活を研究するものであって、真に人間の生活を豊かにする社会を築くための学問の本命であるべきである。そのためには従来のように家庭内の技術ばかりの研究でなく、家庭外の社会的、経済的、政治的問題の家庭生活の立場に立つての研究が必要である。われわれは日常使う物も商品の形になり、業者のペースにまわっているが、これを生活する者、實際の使う者の立場で研究し、物価問題も公害問題も生産者の立場でなく生活する者の立場で研究するのが家政学であるべきである。

このような考えて来ると、従来の家庭内の衣食住の研究が家政学であるとする人々から体系論の面から反論があるかも知れない。これに対しては昨年のこの会での発表の通り、生活および生活の方法をシステムとしてとらえて研究するものが実践家政学であるとか答える。